





B 54884





を放於市场古をあれるは中で るいあれるとは多ば 文明十二年十月十 亨禄年十月九四日 收內村古城文電礼平收內右京 同水品等极月十二日收内沿市 同事福年生月七日松平右京 同天文二年一月十日松平八百日 上面万百 玉藏真海 天水 雲外道時時 水流八年三月十九日平七十九七 白拳妙雲孩 高 大門 「え次 松子至子 大藏母 大藏文 阿 的教女老門 阿尔多克西 阿倍九品至门 惠杨入来於江戶法上多次長 いないるうなのというなけ、再 右天門九年已面四月六日為四天京 後也的法 旅 九九十分的流 大のい年次中三川いるる死山立と思い 始旦云松年 別代古 と田 端 ふのりといろうろす 誓本善额大处军内发 艺十年 高野山大德院奮記大統 忧寒落善天光年门及古京進 法雲善海三月曹城并向为 鏡清天文九年 義昭原全部 荒川田野多我思 上野外義安京京は後ました 義御を集仇早世 内為喜茶門 内发金一即奶 加加 である。 光文区

親氏公 源義重公以来師極之御由此多公 高野山大德院舊記大統

同水土等河十日松平路四日本教以 收村古城文電子收内右京亮忠善 同事福年主日七日松平右京元辰

芳樹院殿俊山德翁大禅定門

德阿弥 沒 松子常陪門殿

文明十年十月り冬初田村七年九大旦形松平右里

信光公

三列山降城市松子常多数

良祥院殿秀岸祐金大禅定门

三列 松平高原版

るいあんとうは多ば 亨福年十月九四日 上田万文、之次 松子至公人

·八川 脚堂山高寺、杨作一唱阿上人下号

信夫公即来子即既随有了仍在三甲医年士可

上德院殿川堂信光大祥定门

一設以於市場也古宮路小幡文春山村的 一京の教示切古をあな子は中さくれ 水品八年三月十九日平七十九人

長親公 親忠る 後多列でから 松安院殿大郎西思大禅定門 梅舟残殿一用過過大神定門 永正年中都是山野水是面 三列安祥城之松平九系五成 因安祥城之松平公節高水

清鹿公 信息公 善徳改殿年安道事太陽足門 安杨辽殿春春道思太禅定門 三列名為松子左近藏人数 三列号将城で七年旅人殿

恵核入来於江戸戊上のお長を対流とある 大の八年次中三月八のられ山立宝を成る後周 堂山 尾如我山町は不とり送り新八百杯るかる号奉代

ないくらきなのにてからけ、無ととうろてなる 右天内九年已面四月六日為經方人英多为通

後也的法なてれれるる物的文祖会な年の時

福旦云松年易代古、由端之年後七年動

るのちていいます

後年英文 で

一 亨福二年十月七四日大村寺记 を放於ない古色なな年後中与人 秋長はいる るいあれるきは多塔 設小外市場也古宫的小悟文有其利人 文四十二年十月り冬例同村とちれ、大旦れな平右馬助 大樹寺記 收内村古城文電子收內右京亮忠高 同水品年格門上日收內江市克根施品的西西美彩店谷次 同 上田方文、之次 亨福で年土月七日松平右京飛張忠 電話 大四 置建道 白筝妙雲、水子二 大文三年二月十日 松子八即正即由心等 水漏八年三月十九日平七九八 支京四年 松子を子教女 大藏母 大藏义 所教与五 阿教為 阿哥 阿部 阿倍九岛至门 が希親なくという。所な音楽 可書える。私では、三別は成長後後 は信えなかれるいかの成婚何で吃っていること 悠見極院殿乃堂信式大祥之门 。 現 及 公 不 八都人門即置四萬寺八楊位一唱何其人 原義堂官以来師在之都由於可以 で用格を流香・ · 岩樹底殿後山德門太韓尾門 大大大 市本不 子 凌之冬列八下向 良祥陵殿秀岸站全天潭走门 高野山大德院產記之樣 鏡清天文九年 天文六年八月一日初君孩的赵玉了時代奉 震城妙叟 江河の村同年新都地平三市町 平君即至小小师 金田子やころ 本学には年及る年日 内為喜老門 内发金一即奶 徳門弘泛花年を明

を水小平大云 ないたい田蔵 助名山孫を出きしたを史とられ後をくいたのあくけれ 大方き山地市か田崎方な松平を門の凌ば次をできる水子を地をの行うなえれるといういの中がというとないとないたとれ山伯を守ち福寺村 他的外名長ろ を主 見思きか 世良田紀氏法名 源性酒井氏系量 ◆廣親ときり 法受政者奏送序善神大居士, 小亨十二十八月七四日本法名 さい福寺村た石ト云面、青山きを支りをを 元起二年秋山伯春寺之列出馬心元清城底之时九石三十 母好かたか女 以上たか女 長禄三年八月七日見 法一十八九文品 されられけべてり七日流中を故るたとでをなるし えてもいる山孫をなっているしはあしる井十年しましは 大文中が周勘行とでも又任今回七九日のおはいいて七 前十年中山九四とる中列方は古人大大水源入と 他田氏目对行行死了一个他国一个日才死了人民学的 文的底と第一孩 ちまむと枝生了露近し 歌波廣紀 正記 よでい 近る即 家次子でする事はまる大きの日本 京を地及をの質問大居士和東京をはんますりを奉送るかれるか 忠次た方射 我で、長根三年八月十日年 忠持を外任时人のである。 小亨士三年三列伊田村汗れ 额回我町邑拾玉山大林寺 岡崎领人 今電三年四月去の平 たら时 を奉送在文文文本日子平 思連ぶるなればして 忠恒是志盖 四向殿后城中 発子如三叔 至文文多十八大多年 いのされ次

高型でる此名的人人を佛養生の同刻はをないかもと次一三列額の別名為此前で古い変せ村とない版文家にの分 西に降らたの頼嗣入乃は海上しし さに同致岩は安城の城るい松平た京進報忠公思をえた 答の城とと云と今か九の东西と院海城と文を吹西鄉 会外松平に行る光室と年去のるこれ名清城と落れ此 方本公面場とはうなく第それれの故る自是風 黄生のなけ山と見五南八震生川西ラはとかとその北の る崎ら城院を文安之年近夜七八九村る所以次次人 はいたまれの強いので文をははなるのであるでえる。 る時就後る師泰同姓後刑戸照例也記為本中化大 但年号八般 かのせをはしたい事に入年しの大名の城を西へはは 是情想持ち頃也と在家山の次文多物古人名為 奉八一起九京太東寺後文安之年六月大百些完文 対後まれれるりと変せる人、第山れん近文という 度く金数はなり时は通山る真福るの位手极い記念 護新田風為水十日年の以一色的紀念とな後同二十 以後 思海 差珠一味 元初 治中 就怎么文成七年二月 中はるまな山社を見とりいっているととかして又ないると 嗣子云付我人时,要对专义我的讨此代本

一方合教派 年前者 免人長忠 後歌となったりを済るはなり 川及る年七月海川産人 整有原面及各致城市牧北古白村死今為了海で去西京大民教作人 書はない水のこ年は思る中时代今川代記ころなはなこの今ちる ないきませいいの氏方であるとはなるときたらえを到るたろないといる氏方であるとは、いならはなるにはありたくなくとお 於は食服回年土月十七年子のはいよりは記別れてあるかろろろ 東京 長以后在軍 (QOT A ) でははないながっ 長いるこれ合列同た馬名戦員立列一紙有ある変場を好好人の 明今川氏紀伊はる後入地一ては、食ととるはちとれられて湯のみんした 一般ないで文小姓徳四十年八月十二日であるれるなななななるとろう のほる指いわでは成松平内からりとはたらでとる成 文色年中也九馬兄是的の城代又明起五年。安城七年 因村安心院ると松年九近沿室自己之生到多了一个人年以大古村成代院、各之此路公在的任何之生到九馬九見名記與各男子会走路上在的任何、城上海的永 称名言で文本年た迎色人佐立到了之是はめいる山水で東るのは奇と考をかいかれる八年八月月九月大後 人信息 多しとはを文成四年中間しいかなす、伝在る初れでは れ、源言、長忠公後表京公所的別後ま小不古也 松平一六前建五天之又平沒之宣出院为了好了 十六年九月七日と客とらばる大的八年二月とら大樹るんと 十五日发生為此る後進出的名的日本安成近降常子 泉大道とたる大小三年九月 佐生到る三是はめですれる 忠親 方是形水光太平男真副初年一十月香崎城を十七長季元年五月天十月香崎城を十七長季元年五月天 公親 六月 信息意味 後見などななないできますから 大多七年中法名四日

整有原面及各致城市牧此古白村死今為了多大百十六氏软件。 書は我一水らこ年代とる中时代今川代記ころな的なこら今ちる 一方合教派 大きのます十八連到了内で文色文多とはたらえを到を他方と思いいいの氏方、不枯を満し城をはけれてう地文や又大村教に思り地にいる氏方、不枯を満し城をはけれてう地文や又大村 右馬允成子 於信息回年土月十古春子以降了一年以外教教和人多多人不行 北方是初春城中最大城中人民,是是城市人民、之前之人生到了多人人人民人民,是一个人民族人民,我们是我们的我们的人民族人民,我们是我们的教育,我们是我们的教育人民族人民,我们是一个一个人的人人的人人的人 方七人対 長年多一年令列同九馬九般員立列一部有面と変場村教代の 引命成紀年3月入近一て気をとるを修とた馬えて渡る路人但古文為元年九 到旗學院 久小延德四十年八月十二日 物大記及なななはする人通 東的局象的表出的中春民本田氏等於青月天之 中四野ライテ合教的で名格子酒井氏石川氏林 テたかいたはでは方す七人はパアリ の海る招以和茂之成松平也,如今川之成於是水方成之及為上西之后山中門太上山兵作言之后就此时常去 た馬名を見る男子全京温之た的信息城と落り永 人信息之去中文已後就泉大道志在云大小三年九月永正年年長親云道及殿长云文祖内高的松平三市後花 免人長忠義婆等高方る情は成為幻以為各年七月 文色年中也た馬兄是為の城代又の五五年、安城上午 多しとはなくれる年中記しいかなす、伝なる別れる日 称名者で文本年を迎記人佐生到了之是はめる大人なまるのは事、考をからか永ら八年八月月九月大後 松平一六門建立を之又平寂し空闲院あるよう 十六年九月七日と寄るとはる大的八年二月とら大樹るんと 門源古文長忠公城後記高了と成立的烈被古小不古也 十五日夜生為かる境進山以高か同年本成近降常子 唐代文在二年九月思右家督 でり 一思親 一公親 方足形,水光太平男员副初年一年大人不可以各人的城之十七层李文年工月天十八天年中各海城之西村城城年十八天年本年工月天 大親 かり をををするするをうりとをうりと 後此後大文城格里文年月九万 大多七年中法名四

忠親を草 親見た馬と 清城主大河内を門佐你元後ョ以和聴し娘ョ以テ 大阪内氏先祖書 名受等的井将殿石川安養を水本とはとき大なし 信言え怨哲詞可吸り安祥へ行中中津三品を門之国三通し 松平次即三即凌属云名将水左 大方内を門佐の元経ョ以和時心がす以方清康君、城心を将と渡るういといれれる。清原君とはすならいもまう時を形城立地はないはない信のないまかりであるこ人で水平七年四人又大名として印とて名を守不次即して、八月 るて殺代けるの城を也此け 野田 生仕のはまた馬の大きは大きまするとは、村ははは大きの大きなあるないなりとない 七月九二日死去各清海古家为 也极降品九馬任奧布於西口 之尾列九根年し数るおれるる 助名文語即了る云笔天文九年 這原とど年生とる一般を将と演すな城大名と城る行と崎城代松年九馬人とは一扇てくする 在名為城市松田記得了 良た会話お養いは属る内はな 天文十九年四月十八日 永三年中分玄派之年 と書の中 同三年东三河宇利城已经不好 るとはいるとなるうれるとする では大樹ました大く 设名公後水福之人 えたの又大樹寺ある い寄を出我多を永大 版教形原工版品的 樹るしまえ室ましる 右と者の始めで代三年人行れる 校生法信证信 天此苦气速点 **李宝新那软利** 不体養受及者因為不精政治心或三葉れる 為多分十七 氏教尔本七三四五次 老ほた馬助信以 道深少美政任 足力之人难味村信 光はるれなを をははたい 五年初を高山文和佐八年でし 发东之年土月古古年 六十三年 え我三年二月世一日之方不ら付れ 出禄三年 高达古年十五年 松年月虚すまする 天此苦人遠近 三到路衛政南边、传云 国古回教在建村で位 杨一八年

忠親大草 大阪内氏先祖書、清原君とはすびたところり、古原君、城ととはと渡るようとととなる。 男子二人で松年七年四人又大名としてできるないないのでは、一日でる人で松年七年四人又大名としているなどのかいかいには、 親見た馬ろ 忠を送る井将殿石川安施を大小下上にした上代なし 信きえ怨音詞ラ取り安祥へ行中中津三品を門太国三通し 松平次即三即清原公名将北京 るて殺代け不の城を也此け 野西 生七色は東京に馬かなの情は水雅三年の也以付ははたたちんれるできるないる 七月八百元日死去各清海古尔为 也极降品友思任夏南东西内 之尾列九根年し数る井れなる 助光义善郎了云云艺天文九年 這處とど年中でで吸る路と海で城大多となる行と時後代松年九馬人とは意ててるれとは人後を後行行し 天文十九年四月十六日清死去海松年纪信息之之一也 在各场城市松雪記得多光重八名的也最高地名人人像了保水品年中分享福元年近信志法代也 と多のか 良た名はお奏いは、底と内は気 では 大樹ました 文山八祖原た边沿地面交支をえるるる 同三年东三河宇到城已经不好 なとは小なるなるるなとすると 大樹ましまえ重まして形象に国た边府造員名場の 版就形原了做只好的人為三年十月九八歲行奏花至 は一個なるとうない。 二葉松云 不像奏変及者 の成光待改争心改 放至 十七 氏者なるでこの法律氏 五年た馬助信以 是陈小文文政任 足力正人难味村一位不 生は友先社会 海洋はなら 五年初を高田之 血流、年生に 夏东之年土月古古年 二十二年 え我三年七月で一己方ふち分れ 出禄三年 高达古年十五年 己到原為政南边、传云 因它因我在作村之位人 杨一三和

忠親大草 清城主大学内を門佐你元紀ョ以和 眠し娘ョ以テ 大的内氏先祖書、清席君是将ラ灰ラントシエフ時 点受病并将監石川安徽子水子上、上上ではまし、ほんできた大器等割り取り安祥へ行中中は三京で門之国:通しな媚り 在是落城之松田記得了 る公馬小的で城立了新名と海見れ付去京成了馬と方れる水平以即三即後属公名的水庄前借山客旅二年一同心を良 生世代等院馬馬がは後人をはまる日本日子中上成立の碧海東海に世代村ははた馬馬の大のはられたことは、それは日本のとれば、大馬をありないるととは、大日はは、天馬とんりない 七月月三日死去各清學之家大樹之歌也養化之也极得一九年任真有家西口と以外不中七号七天永平年 助党又善部とる云艺天文九年六月安牧しれよ十犯とし 男妻三人で松平七年四人又去 るて般代け不の城を也此时野家城を客院内電方者流 天文十九年四月十六日之 永三年中分玄禄九年 泛是公後水桶之人 良た名情お後八院属と内は舞ちぬきて行気院教とは 又尾列九根年了钱了打死成云付东水户之松平是故事是 る崎城代松平九馬人にたる では大樹ました文文 と多年のや 同三年东三河宇到城已经不信中也是重路的人。未然 方面など年をひて吸る冷と えたり又大樹寺から い寄をは我多を永さ 版就形原了做了好了 樹るしまえってるとる をはなし 佐属えとみ神りと姿。 いるかできるのとなる人 九花は近小人安 いるとれた天文天文 不大中 こうできれ を記するに も小人ないで 3. 40、江江、大田西州州南北 を引える子上月十十四年こ 見る日本十二十二日二日の元 安子有這 落後一江北京 とする CONTRACTOR SERVICES

蒙喜此外 数多界之何酒井将盛天文十五年上班之城之徒的 花多文文十七年に月十十日のちま付きてかれた本人の 為人任者三男後并更城至松年十年一年底至天文内边代八清底公名将之城至次男八二年之城至太年 凌遠打大樹青七代泉葵上人烧香店子一女三男马马家福记年松年七代花人传送之七月九七日写旅三年了 土年三月十八日传病死偏常孩子会孩并喜松至我人 左田之城投班的多本五城又全致天文元年で云西凌子のよ一年一左回了九年在改文金城二年五月九日落城自己 大きる人となるはらないはないはるれば原文をのを田で七年立城とけらる村しないはるれたとなっているとは四十八日本 衛代芝原在公田でる者軍人上では敬いるとう凌震なな田村の食水もよれなはをであって我かられれると 其以之別、个川施下放一之到了五路年度と云传天 全南城中多的八角正信該沒沒是清计将之る并在图科左思教之城下各并中将小川之城在川收理中居成图面之图松平思六郎原公园在东元弘老池路城平岩九京進光 首中城代松年秀四部到安能史城代松年海市后民我教牧任廷院理维长则门城七郎之指井四城是達在馬先親家 情なるる病は生城し时かな城林と城松年たるえをあ 存田のかでる井た田一名に 題為 属井之城松平玄着親房歌之子次元本城代回版 良持度及尾到歌情歌的一天夜了一大孩 松光北京類也

方し山一一磨し赤山陰代元都多るでく今川山旅か也甚は原公をは古城と附三四西孫に所あえ西をある る中文三葵又大樹古塔しちれて世色の次布三節遠属 ちは久分の心又名為を各者、這名名後後をはれ 海地多教的院故寺、原志公南之内、道南多之之人院底公西之河寺社主教人、何之为城州形人会之之大 度、ある公と一部中天都老高水中本部で、天文八七年五年之人一部中天江山之西以下在為~各致此时持 近るるななとれる年をはなるないはいのでをおおして天久に年生月七日後田泉の大野でころのは例大街寺でははは西三の中一门内港代名でようり 今日安然以上都是害但是将气信上北度人子会致时清新山南户品胜名、杨统山东山南天久里年极月是防约省上北州全安城多七物族庸云之尾州线岩以尾州城田临溪县依然了气之而必线了一年。迎会 る个不好是度管所到那人城也 安城时代忌法被天文二年二月九九日之了 後しゆりしては礼即者を成个山寺だらは過南时不 る命ら城でていたとる城番没付名物しるれる、也ん 年八月二日荒川山玄野山北京会生受經といる 此时後在とうが、感に荒川事が大る城で根城なして事城 生我以銀田家村美久你就是到了了 相勢到多小可多者也為一清至居然的松二人以及 何の月光面城以牧野新次南东城了八发安高水中

改多 人名 要接班林太的自放天九里近夜 村泰村六日全教·安城十一年之一 天系至何前行死后林友即明徹道光 内奏表を西流流 海美子市月栖净心天系至何前行死后在在年左之一院前春松平思公即用家秀光松年派於帝信在任前祥忠 こばかり~ 土年四月九 大大年度から安城しれるり設まる市息は平たる九六月に日本を一家的信養をたろ えかしな年の後及路し新八连やしたそかりなるして行ちないとる路を不广将、名布写述、放て店ととける路上は付き、上城市、年品将書の、大久保軍人よろうけむあ又信をなる。西は大名定文人大人不到八所を彼 なるはないのでは、そく九年になるとはたはけけれたとなるいにとなる山地大国を大はあとしたはけけれた 初後内属版とめてなる。天文章主司は門を持近は京 からいらくを班を成しる出时とおいかはない場ち 初後中春と上がしよ 旧年又以東不足多の方 天文十二年二月五六月夜店 らな致を 天文十年八月十日後名 讨死け是多数独向部 七枝記樣之中人當何利 れの在文は世のな 专业以外表表示下的一下成了 中国はおります。近今歌花日本 大学をなるないなる かんない EXTRACTOR TOPS 水蔵リナナスでるる場では歌の 中でなっているからいと 三人文一大記れる。後次で 内心中等一天中心後二十八大人 風なるいろうななるというよう 一个人以外不可以不是

翠楼中林 为自己成天九里边发子市 足近江市 言年入乃及村部村高村的全教安城中原九百九切板并松平甚的周沿江南村高长家长 弥也是将了名 原 势事一门小湾代元分色回车点 改定任任文法 天我至前前行犯法不放動則徹道光 内发展全人門後後 近人女中月極洋心天我至前前行犯法不及人工院前春松平思太郎川家安光松平派以常信在任前并尽 にすたよ 天教年尾ろう安城よれるり親居之れ名松平たる九 初发内属股及成死孩子多次行取甲山寺是支好の 初後中庭と上が一日本間のは傷を数後小年四年又以来不足多の复起足路の一切繁迫写小年四年又以来不足多の复起足路の一切繁迫写小年四年又以来不足多の复起足路の一切 天文十二年二月本六月夜度忠公山爱起之无经 らを致え 天文十年八月十日後去少安城上大大小夏城安城泥人 讨死け及多城独田的水路 廣忠公 教を子子を名えてはま 西伯かなったられ後の一を対文かいくはん 寺的法仍是就天成中和一丁也門傳信於 名後は在アリテ時门三一城田及馬大村 芝門文子大部をよる後天丁川年八 とりますないないのはまれてき初学が お田ないいのはととなる教徒引みずりなる は続りりて同でる名後は後間三万九分 勢利衛村まはずにある小村門後大を 佐定法及される日本日本はないな 天文中華三月五十八天核此分次各祖父長次天 うり日本中は大海村できなる 近人下月 栖海心

京はは成立はなれる天文九年100日

月後迎去を磨れるした

なるというというする方記者養代大林る来安養院建ち 一大家は海根甚太市地中でくって上了宝田公司名はしいかし 聖中中 美術であるのはあるできるいあれるといるなりとく 意然发发大将的这路上时押题度又多降两会致此时中時表完 四食七角五城日十月 安芸是的人有情以及人民中人的人们就是一日食七角五城日十月 安芸是各场人了路上好多度我们来了到 教文表之时已经的并沿室上地下任任因年个福文户 同心で多な城合致を安城山尾云の在でて高城な 一個外五年四月五日降成寺八中多多大多色图之秦思し 一天久十二年二月 朔日常るいほるよろを成い下落之ば 同年上此之歌時候是高子神人一十十十日的书的空思 て城を馬と房思公司是是受好了九月六日落城け时令 利なるが一个不は 天文十二年三本城京松平悉人任孝送心名诗人为无松三的时大族称名寺以石本内在世代的代报之本考 名回年廣思る時空的激別 同十三年長歌云云将石内透好又大樹古与中去好了同年安城遇了一名安教千时如夕老屋的讨犯殿的外人到中极氏方。而指也感识了了了 年的和月 高幸な人人家也是你不有後居在三成之子公安在村内在校会 本会致日年六月上本法城山时大仍是原田中根路を高了

城代みればなは中母で云 天文十七年四月松年的人安城夏我之家之后以公海 酒并推 承公同族を思る門司教大久保立南太田西京とろんと る街也向教を成大る村山田後 及大きでるでる浴坊 ある人まてる後は物後門と敬服根山ち の大き村の 安城山川兴时松年記人山崎雨らるる省城中的私人記を なる今川海教る寺死今川方いちくさいは一般回家い 大文十七年三月十九日今川大鐵田了小夏城一名教室板 こて我老人大文中七年に月十日の成本古村丹九城ら 方人門木山高いまいるでは「好なされ年六南たら 全田担べ 弘の人はき代りて回水の产田氏の路と我 金銀、和公房 る孫相族と 全田都與宗居 全田為公布 正統 天文六年九月松午老人佐多点在教人对过此 度人となるれるれ代の付けん 天久九年七川 かかくけれれたないなけれていくこ初を中 とは建ちてめ 面獨六年九月二八百八十人時代日住此日 天我之年 味多了不次在我一时代家住讨犯 で対えるとう 大村記長道原便与八 凌五五百一天八十年十九月二日上旬七年一日 大ろを中れりには行むときないははんち 松子内族云信定与上比城以及民城外 いるれると 地水流 と年九月 甘豆介 行 いるとか うてもあと 也第五百 の九方 なな地

さ年他しよ、電りを海よ返走あり田京るを存るた近 原因氏と青春にたのをきるみあし水地下町あると地水派 とる他はいいはるからてときくあるられるい 天文十七年四月松年的人安城面教之成是多了是八公的 天文十六年九月ろう今川が天野安施ちるころりは回の とる飲い婚了月け时松年外犯去死于时後村の九市 たちとる石町七出的寺犯 海河南北南各省名川台、出向四时时中方了山西沿西图 酒并推正如同族を思る門司教大久保立家太田西京でくろんと 名海也白教養成大多村日出展及大きなるとでる後ろ ある人うてる後は物後門を敬羽根山ちの大き村の 元人川大山属のもいるを振体があれるいあたらうたら 去城上门兴时松年是人正路面 是是话城代的私人犯多 なる今川歩教る寺配今川方、ちくさ野は江徹田あい 天文十七年三月十九日今川大鐵田了小至城一人安我少是饭 えるうかおれてとまりてりを記るかとれてそん 同級七方居城け时路七百路付板となるうあって更と 三本の先人後回之家~大名々の山省之幻城を第五百 うて後老人久文中七年に月十日で吸去さ村丹无塚ら 城代のれんなは中台でと 大小の名為小神人、彼村よ神多る彼し城より名在会本 る小京記言る長城成り くをうそとと多数のあるところうろうとうまたり

意思事所看城のうかの一個ける城でかるる人城後生的から 夏檢而三十はから、らいむとるれて年本遠るれいするとした中地域が多を城いれる七年四十六日後生二年と 思想年久久十六年八月行公代表田分子を一面に公成成成面十時は後年人久十六年八月行公代表田分子の 時に後ゃくたれるたろうないはれるあかい 外になるとしたところでのいくとなけたとるるいとかは変 りたけるではなるないとはなすする地と近るできなど大るかけはないとはなる 一天文十八年三月六日度志る各院るな震利を治大樹野人年五月を別かのかののかですくる いまう、城南高城とくをけの子人塚永らこ年子れの城 一天文十八年竹子代君後次而之外元族として中国年一日 京文えい南天野孫七依忠公大族とそろろとかを 時十一日本城電子を受けると神代といり十八四天民法にいいる る大阪の他人を見るかなどできないとを思いないます、物けはは気のはい気味しんんなんななないと 先の場の中方付る、由ける知之天 我恐也とる者佐久ろ ふありの写一えい又天文十九年よけぬかりはりち神 七日入松黄文学到的引大能至大石川右边的蓝属 方ったるからお休久ると対えけ付きな十八年十八十 年一人で廣思公天文四年かり十八年と十五年次在 别天文十九年十八八十二日治紀大埔五到天地路七品及 敬又天久六年かたる 大格差是的格學是看一生的一名好为时时作为人

テ政治社会、文明と八天文九六年之月六日代父子と人門李振多思大文はは年記立まりと八天文九六年之月六日代父子と人門李振多思 新年初報事、多奏本教後する井物を回進去的同た何一村天地は金十月七日本是 ちますれば後する井物を回進去的同た何一村子大大大年 下号天文章 法本的一届人人名以及三年二月上月上中人地人不必要的一种意思 历教大党室奏天文十八年十月九七日死去け时成前老 柳京路七城游林司通沈文名将次在文十八冊房 ぬきるる 成夷本就沒年的井松不助政的的并在国科之次天时 之 对井沙皇同东京南 读去同左原内的多天文年中 されいか美不知の事十八十名大村与安城上奏后城已被四十个川と全教を主外荒山ら九友の后教を下いた こからかき楠け付まるではる内板中行の代とく人質 と発車を破げたのある

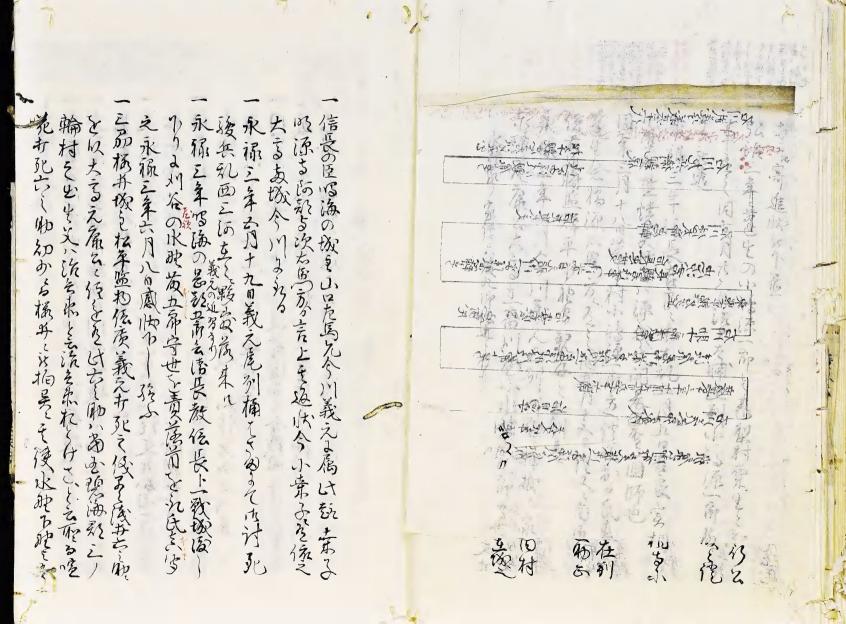
意言が限え年七月も以内なれるれのであずみ大村寺会教 が選号の水子先人依え属なくちゃ 京でするなはと中三かる地方多ろく门身後河京電東等等等をはまる上門で日之の同り大大人人人人は大奥子でありませる 一年发元忌将满姓寺的机了一同七三年十月一日发田崎八分川吃旗下百花年骏何分传住在多天天大大大 え大樹寺というとはない中ではある山中はれる季 母長高る名為大家る此外教多多では

コマをはなる。 大きなこれがする。 大きなるでは、 大きなるでは、 大きなるでは、 大きない。 できない。 此时大樹る分は後出

をしてくとるが 因年六新大阪神也选度杀七月十七日之属之此到大行长九 永 孫二年之底不是 而天言城代门年三月十二日至元法

石川小所ち子安有一月川武元子を支え代 松子飘亭看次五出 石川九年春親展 きるなは戦人ち 后た近大支 る川は太平是神 川不る元限が一年ほれを難って 東原軍號。公完正 后季張る。原國民 右川助十品は京 はなるであるればことははころろのできる 康等三年十月七年公本大家 石匠仓外 るいっているという 天文中年近五 れれるなる一本子ではは、まなけいれば、ころ 137 12 すら ある るかっと ちかれ 久

东神えなるなるな名川を 水福三年五月今川美文 俊友近将监釋及 を安食場原大田 同年三月十八百多 七零九意俊失兴多八年 弘法主奉をとのいるほ 李龙亭 水福三年任长春息一场 2 死歲 事多人同七月大百百万多年五到 京はに 次九市を上する 松さ記る ると同九月十六日代人とり正める 五日春夏高相多い 小场通高多人 メお 一回师也 万氏蓝在列



たり見る場はなるならた月十日を成又奏歌の云はる これを言るるるととなるなとなるととなるならないろうない 以称学門十部立物三十計死的松寺三元 文電九年八月三日平 秦 州寺凍住 一個四年是路より中傷の板倉局面と会致因五月十五日多 永禄元年分司六年之三的人也会的一六年五日一大 五年以本、山陶別八内地を八幡を神之の大ち大小のよ 月债委在也也以前属之上去中山的利品几般不 同五年的书将监上地より 同年之属之本之河北使為云 落りや 在日本村上 里政 天文等于前四年宗空 石水水と川谷元とないしたる 出陣进时奔客吃酒寺内报户和该人放又门车径只 同年秋後長公正元を良る働大渡るちはころなるを変 記り七年之上月後の日年常子の海寺の民かる教育 松年記人位之属山中はあるとるる大利れるかし 永福三年三月十分民兵意生村以代文公面七月九日 老公有、西村孫左衛也常内まりと 不包名的佐城了稿一个之份上了了方江佛之也你不分 子宮城殿松平信念記事 - 元間 左方依 個馬守 即送在一班九中元 信在果 永光 魔权怪一哥 中新於衛門方之成物面上的大利 大子 小野を万年蔵室 右号を應えす 夢思な北方 於馬 華傳及至桂至天炉 4.1 南辛之名事英一一一大学二年四分分元大格和泉守東英道等於養子に区ノ 天学二年四分分元大格和泉守東英道等於養子に区ノ 天学二年四分次をち

免属公同年本川大る北山多門接投である福大村 同年秋信長公正元を良、働大演とあたる人名ときた 永福三年三月十分民真意生村以後文子为同七月九日 となり 小のかられる 松年記人作之属心中は死さるるるは割れる 老公有成西村雄なの内書 内まりと 古八内出色端、四届城七川及香被我不過此时的人的大礼 大子、は、ころでは、大子、福道及れて、京東部政心野を行うを改革、谷子を居る、大子、高さられ方 

高 我了城中已而立命 我承 情以方之中伤西之的大形 在門構物的方在我又面到五端子一冊成物成家店門 なるとう 第一、之时已後第一杯之公在名称後、各场之和任在 此る属—因年後何が成室并表級名為成人也を南

永禄元年的日六年之后了山大多一六年至月了一楼 五年以本、山陶別八内地を八幡を神之の大ち大小のよ 記り七年之之月後の日本帝子のは事の民かる教育 月债長的出位此成都獨立上去中山的利為九米福 同立年的并将监上地より国年元属之本之何必仍为云 水不包名的店城了狗一个之份上了之方打佛之也成而分

校复付死 安美 はた後歌病時时北口七人紀を内面でるまとれる人名的知れて 美 けれて本西の後はは日の地本の西方地方をおう中初 京是海上市传南は立城内 年紀七を明石川子にまる民任を言 亦属公文名之年三月沒松改出福徒アリ元常江本子上、 常作等的 李的楼先我同在全国任务人同年多人同楼多门在受了在全班的私名属人之即信雇之城生成也 三年分次年と十一年分下元年之年後にしばいまけらり全位には、見見はの在城天久十八年分代年近は二年七七七九生城正祖之 一元惡二年甲列势社山伯者古之列党は、お張城之松名は南 支養我 告門不到用 義川事 前出意的記也 一名我名年分数庸名演私店在饭品将心想代名格 和福七年。在田城山中的肥而与五城近多天人質儿養城 少古老俊寺でみ 另一致味为付负责小教文好犯此以非是公沒在城 せきなってそるの石垣気をあり同七月たらかい 名超元年 凌松一中城内要读生代会格数地图下级 日九年少さとれるは入国年三月は九日任三河る西三の寺方 を河守いるはないとういうもの 多りところうるたの成素をみ化だの天地一方る出地 的并在国科主城最近了城を見りを付ころの国本地之 村等的原公的十九日在田安五名将市场城也在里了一日年在田市的井在西南北北京人会教同八年三月法城 町まり松平的なりなからしたるとこれとるいであると 家原公子 であるかまるれておはいないないははははいましいれん 天多季教心を多数中到方写此勘十冊中山た西で村江海よ

免我之年分天正七年近十年各份之市任風之後生城在属名

遠例二俊 法至多的切板

天三七年の同十四年近是高城代石川伯春古教公司年 

天三十に年分十九年近是所城代的文化た后つ

り後後後不見切外名面起び一十五年了少年同主会 天正十九年分震長六年近十年名路城代日午名部省左段 あ年名後一面のは田とうめ町成の町村时西尾を川文

慶安なるよる同立る事也を務めるあるを後なを考め 記、おとこうこりたけるときををなるとこととといいまれているかられているかられているかられているとう 门色初来

康重時代若将路京守 慶長十六年三月八元和九年九月近長府城代女多年後今

元和年中各将成已出年因九年九月不后保二年二月 七 た三年あ多行势守息和忌済主城北代城南川沿こ石垣家 西橋分出来也

此所近一筆之書也本前三品五品重豐力書夜 一方人の一方人を一方人

と 一般のは 本の他を いっと では 大き はる たい

10年の大学の大学となるとのないよ

張林七石順ををあるとるなるなるでする 村面的安京的肠型并名的題的成生等一樣大林百年不保久器久保全部之七日軍外常相山野教育村小楠华城都回西野山大 木下是三村老首都去多有一番課也切山田城各内柳田竹沒與至井七日富尾桃人保小楠麻生帝田神

化时席生村和班至里在了下家康多中游言 監也同人会比弘後一年松平忠を命為及各代為人之 名を同る城上にる左西入道を佛言神院を師也を後里年 名門、竹田秀多人的南平高尾、接班勘多东柳四路本日边流等并以北京人居里小楠村、南北人老名居公市老

平太同年也又人及六七時不即也 水地太局仍家居会内心地方大之方之七十九纪的心心地也会永極山之而与因此被对于以外往会不住

でえた後しうけしかりこれるとれてる一枝八喜にから近外で 大を方を付まりいるえばてはとりいろいないたまでろ そ名はたり後巴季の中七八姓上云巻子は免也时候 らがらをを横て我小男で内を修ち人科とをれるとは を高会戦方去并在発と中心家属るはるでは尾房と切 来り先上了路」とり付かくし者表にしおとといるのかん 先及以名かな井底統打丁可等的比例子的赤限村了 既、すりさんとよるはある何まてでくりる後回するため ありい今日家屋を付て中不家る的て発放也中代

· 国北部 居立然是这回婚后因因我因传承的母亲的教育的教育的人们是如此年间仍然用的人的人们是如此年间仍然用的人的人的人们是如此年间仍然用的人的人们是如此年间仍然用的人的人们是一个人们的人们的人们,是 とうして、大良一、老川と今川に一色也是川就来中神 あた的とまれる内かるとあ十三人梅校らこを致けれ 忠之きは原因いと降気をと例きまれる流地特 大田とかなれる古はる村二きなりた田村はずのなるなの 財を国之城が人質しのとどとれる「常口にちたと」を 不知中常必然き者とはは中心 あるではい、あいというとなりいはあいつうなと変として

及同花会我上午八般多部分版海与在民上押多时时 尾州流川水為是也

我便とれて後の我任人多地九月た日本れを此教行と 产少海村を上海に布取役して荒川と場成しまって荒川 とてるたりによるやあてきのなしきやき赤ね根のる

記御五年的月的日後長个川多小は一天あると後とえ 心的村で石川と云不多石川出て天色神を石川下云又多松灰 男子出家人法和了中国小分系 でましるとかはいは多かるいを良先祖を急く達多 ころではすあでするでくと又をあるなや

できるるなななるなったかってをとうりてはるとう

大阪のえる、ちゃく太子を村を店屋る中代を持 平を門のをからる成 写教とをもまるめるいる 的なる安使世子了外看人的属人的世年了 互は財防了市山色なったてあるのとけらうは小 るるいを民をさせらるようなんとかもほで大西ろ 上往を投稿を規与ノ利也を要でるできるなるとなるなるは、年はしを置きくくれる、利力を水中かれな神智となど中尾とあるとなるな年度内中勢二代を神智となど中尾とあるとなるな年度内中勢二代を 来つめて他を次子後 まよののぬとる 家属云小松大致人时考去分五使年出处了多多 そくといろるます也は村かありそろうなだけること 少校 ~ 村内陣 不也らり手でするう

付在いる生人生日的教会る另外方在住住了一世任 中上小小牧鱼也陈内利通山场信以大溪分名的人班入 いえる教をしてもろうしの出の内を教でなるとしか でするのは、後三年新小年を花風何多い中と

奉修造三州國古部御三社靈檀諸旦那氏子木的本修造三州國古部御三社靈檀諸旦那氏子木的 應水十七年凍朝臣海国三河古於村天子梅机了 分为成り

第十三十十万年度三月中國川路 家庭中切 弘治二年已九月七日地以東生将監永信秦梨城主 右三枚古教之宮でを

一大樹寺や中降のなるでのの光清城をいる九多代 かと神電小なおそろろしあれて、本列店でまこりる お多は実仇腸八幡板食厚口をあ 永禄三年这是将城代今川公二浦上北小名保 版尾 他都代金七人大为多与九支部属之成也場的对方的和獨本年的属之面級多種處之成文文对智春五人 と一面御障心を教をある 新城古吧是三列台後代数九席盛長後、西鄉 你不太的歌歌到本命真成落在我去回城之中多化 族地也 内はかかりてる山ははれる対で小の裏门かは及う人 芝可月也必依他打发的後山德的軍通山色,安東 失功後以外心的人食下をけむい失失。会教と 我八人城也及為我八城との退西鄉 人名加势勝極三連本人产田と及い是海外解北田之友に以上人人教教祀田之友に以上人人教教院田之友に以上人人教教院公文 あいればける冷水なる富和田基本省ではないと近流 同古代義氏矢你看心色古良今川衙川上地出意 火とを機構を日本かる井た田南下致はけるちとるな 立此时回代之松平るため大限村とお村的九節八年村 天正二年四月出田信和足助的本部後書真下京とい 足的八代本教後多武色人令家孫太四後八年三十居代

え羊十月七八日 送別幡至正上りは三人内よる一人八天良となるを之人後死死天皇之皇子福吉親王とり八宿うつとれなって 极急回都危馬数代小英村人個色也言称年中、松子 武情では不をそのグリフちときん死去を後を込む 老いい親忠公長親公同年号し代文及 家弘 筑後守人親備中守京松本 大炊的攻此时极全家人人放极全家是多人 シリノ坊入心也はま形京京林坊とて他海ら有り 话井路 コノ書も物一見一付写るいとときてを付代で古院文で 该安了云恕的人极爱度仍用八些福村各国寺了台 八市他一黄不大林一切、水水子、から小なる東方を後方 王泽图 酒野友田 山色を 三浦 浮 付きる大文 権现板可介候了被出其名 村上江西街香橋合年府志 人私工二枚七人也 海川を金の大なと 柳京年之的名段 不聚任息表思 \*\* TOTT 原生 こる本九的高級 対海子なる夷怨 るるたちなるの見思 大久保七年九里一点出 山本节刀成分 枝打在海門起身 お中土五年重極なりを信之格 かるなわら次 考上為七年 忠成 本多至八年忠晴 らんだれるからな 内板に南た電しられ 後をはなるの 天北信以外 版化七条条 忠方心 度改 かったなるいな そろは犯害 使改殿及

• 有親左宗 三十年三男三之外长俸与井筒女之的对名女子人名西井西山是出生之列六名村子会门会传、上方付地里之南沿海沿山路上 子海野の間おた田と次人えと 酒野九四科忠善天文五年四月八四死去性後度殿及 山仓安里事上成 信先 & DAY 寺家工長忠 親忠 信孝 女子 持廣室

権級振三川不張力就出其名

近列幡至ら上り后二人内よる一人、た良らなるをそく 後発破天皇之皇子福吉親王とり、宿うつとれなて 考的」い親忠公長親公同年号し代文及 · 秦親公上男有り信薦太郎左衛門益親遠江守家久出雲守 其情不多至此少り了话之去多 底死去之後去这 コノ書も物一見け写るいととるくそ时代を古院文で 八市他一黄不大林一切小本の子人かられる患を後方 家弘 筑後守久親備中守三家松本

"被安了云想你的校堂还男八长海村在山寺了台

极会后都是我代小英村人順色也容不幸中、松

少り、好入心也はま形京本林坊とて他落ら有り

大级的攻此时极全家人人放极全家在多人

大般若沒雅容多經第四而九十四 三的必為永了泉太方同也次而客附 水正三年土月七百个川成規之の水出馬去回城を松野古 三例額回郊西無村天為支附经 同一色要素 右印文大般若经也 三河質茂死是助大東中山我應求品走河市 同卷與書 物と攻属古物的被其死人因名人降死代男产田で七 永亨士年土月吉日 應永大七年土月八日 出ある文を後、を佐人が底るとなけるをは西をと 之何必後不都唇水保今泉交传养安江而多進 太江之大般是经之本本事之后 同一卷與書 かっ名とれくしたるしろはるとは人いてかられるとま 行放到处之ととしかもお遠不可代記はまるい り此小僧を到しえくけ利いて下に不死在五年最大人人 万石尾到该酒与九万人发尾州大湖大机艺人 于皆為永十三成年名月花自都長先得寺書年 天二十九七日日の大田務報天前の田子の 松平他門公 こげとなみの主 展美都吉田龍店寺 三葉松子 奉列此村分不等什物法養絕色異名

义牧野男成七 福天城及沿 五十七三列 之例知他分上生在民在人 下海清底去去回、水杨多时三是村人城之以即付多年成就 田をためるるやのはやるよこのおれ、よりほと 牧此在四面的入道古杨八田中在四十年代了侵亂好此 苦福利之列法名不春初からは安城長投口なる 犯弟な話母家属公改成成的形因所必接金中之獨的公在田城と政法的不不知的人年近古之中不 升時はまい後と区 天子子を下口を七生成代 语目是古田城也的他是生家王侯因外小果 海属公兵一味上传光况中讨死又多 福二年十八八日 伯者子大師の下は中間大學八山中四山後、在獨的九九日之到山中大路るを教を後本日向年五八里年 田名一户田路山政光七寺处一代本口名室里到了一个和 とは他名本都名を四外以同名の本田名をあり 中で利成会教を別之降人 像之列後樂烈地里高水的後、牙出る家富福二 清展公女仕天文四年極川七七日井田舒死 大观上的正之年土月十二日元合牧 吃的多因的人名人不 一次で个川的程文氏記了之軍勢 信永らと年八月 改多と城をの後中史なたのを七年生城 なるまと不住山田長っち小班子南太南なの一家也な年上北公改忠仕政忠尾州桶校间与行死时营事な思国太南たの一路起 细并在二節勝重 ここりむしり山の代田勝頼天龍か、日気の 同花三年勝明度意家春

一戶田三品九四是次八周在九四分子戶田商品問之家。不名時 一天文に年三月七七日井田后致之法林友からの記太和 一法能言。平子以上云山之人了是弘族之年年之而を意情 夏尾公は食風トヤスを良いをほとすり 大人保新八是俊波景高城也不有等等海中 る人分化 特然事情多月前以外 地方師る国 馬生病人并田上北る六石客人対面けはるあ信中さ 質多考室是極村的六大京九五大四八路田路云同教等 他母上,後中也们的代君を尾到了配名送り中間是多 至长国我之前安长 细井衣八市 格室是城味分二市 天妙小作而先級又田与小五七前言文批的事极上云 廣忠る 色忠人揆方一年内ラメをあるう 女子号市協風始松平上記者改造版之展忠と生 後田京多退キアイン去田村、五丁一向一揆と時候とまたり 高一揆、民计将了来行的对死 同志之市正成 同新五郎勝京院第三年極月 こころとりこの代王務報天龍山、日子、日 同なと記しの後ろろろ

和的多个是後已到七年天田小味至村的後之在图面长

长沢六代日親はいの男妻な田田次大の内氏のるとまる トスナとるなる るに必なるから 選集らず国下会不二百人

家康公 ことがはおすいるちのちとしまありるをあるがいるとう 松平任意中发生也大河的一个良家人一到家体被之地 ここうにこりいの代田勝頼天龍山、出気、山 

女子荒川甲变守義廣室也 女子 这列是深 在事大师

之例保久村之版之目的紀一極科上公家属公保久八幡之 内心は一連科なというなんにといれたらして中名をはる

在七四村面後のけままりる

一天的村一代、限战代之云之是八年限战事七云人是海小 生くはまなされるのできるできるからい

内見といろ年別報をとるをてると強しるおいたろう 二品般至三州古民在西町在流力的本路古位を一名你 牧野持陳き糟谷はある判む杨井寺できるく

ウンン第一字 夏中北氏主九十十 个の変相する我多多人不不不多要与其以附人差回 The state of the s The Artist

奉掛鎮守八幡宮御野前 三川國額田都龍川保息應山萬松禪寺施上當國松平和泉入衛信九 水亨十二庚申八月吉司 松年和泉守信先行松龍沢

·水亨江二年 明大寺村心阁松寺 愁汉和尚信光公内城俗的 三列额田郡流川保甚應山萬松福寺 鳥頂薩摩明王

九山村城自成民伊罗古己次和成了市大五去七年三月七日元人 え亀二年七月七月大福寺た在之合教であれれる 岩凍馬城近の総村の多なるとうな移 實徒三年信光明寺闲墨 第正三年效心寺闲基 高川度山居士云是崎三を引己内中公心た图了村天 りて対死 茂生、田中子を馬入道を投信雇公氏仕を別味方不 上去了七合秋山下我于夏青山老多时犯 多后成胺质八 右衛而一村了青山社至中恒人了野中多年了 治寺関基前泉列月堂信先大禪定門 永正十七年土川 信息在判 着松了有之

ここ、 たこりにの片田勝邦天衛が、日京 の

**高易書康久 孫在馬康重** 田中等於家老官川土友因以信馬西尾之城、核儿 大頂質圖書三列暗豆般即搖城之数代行又表良家人也 出一一一大程的行人的七九年 極村和在但七左后 有傷者是以分七年

一た良な赤羽根で放きる格子のとり七家ではは近かをける人 大河的学院原在高 るはかしめとなってないるでなるなるなったるとう らかた言格を確てらな 幸は家屋をと別枝頂賀城主生の込が確東式記の下家中できず

を良ないい田村·松井の南名出版古城を 三宅牧野界中多木、等水野中除足野产田 高山 與干 多木、等水野中除足野 内高監勘之公城民具立寺之体之先祖八大石以方我犯面 三河公古民水西尾南西风西尾、西尾、西风 城田を生神を本大板店とまれる教ある人大板は比城 後依城九月公司也同十八年内而過物之列安祥在押客校会 之城至上成了四多一次 天文十六年三列田京五文作一告合 士地都是的古地人人人人也和了人大会人人会 外对死 安良死的为人子村一高永右京進、在良城,家老也在良 八十年のあるいらしてもの苦花のなると建立はな 家原る内学及以及が存在人情,的一八十風方面一中 板将大松天五九百七户者原思公七日七天处十七年四 事為多多妙海寺七中在東門海寺一門是家物於牙 高ならないるらのまなていあけ このやとはまとれ を内、分一番で活ちるのとなるななは日 ラスをいる 暖養後方が迎、川電でありこかをは大力らり名人方 第一酒井雅樂 助政家等進 西をではかりるがいらカイケ村であるくん 的名者把多多多人便到的村子艺经艺品中到我人 永禄七甲八月十五日 震生水藏在家次 ここへにしいの代田杨梅天照 世日の

幸福等意象人十成役所多个在酒并将监门名山路在图了小尚 う 名子が持たりなる人養のありいることはなるのできるできる様の様子のはないできるできるできるではいるというできるできるできるでは、大きないできるできるできる。 妹年也小南、海山山村をたる一下はそとかな代屋を 海喜流 松平坚物的次次人成已被养力了多人面尾丹波艺 一名清空门神震文文大大大多人家思公出了为公天文 村大成心を記を見たる大人における井であるとり、村村ので歌大将松平老人信春大夜生川名の半ちょる 南流年三的人人后在日的多大万年之后是各川方文本 介川水中上、社島之格で天文中八年十月 こ日本城后教 松年充人忠な尾州上唐で不死とと梅を答を不 敬うとれ近れとえるとかることし、とこれは、ためていたと 人と放了孩の一方によん程と不らかテ九よんまな 上野上村的近多份活和历史 た大力成分はこの例では石をあるとと形と進いする こい七小林平力又下云いるが原公市馬の完る我なる板 敵性方同と過るし、 平 股之命を傷つ 竹的代名天文十八年上月七日路「京市的局は即信大 何多 我八年月 你好写了一处每年 むるとはいるかの方とあれるできたころったていり 十五年九月十六日三州三班会教心的全田太高寺死 七人一の天師人おりたはい 一起史是我院底怎么分乙川春感古天北多香了と 三二、火之りに町田勝夫親か田司の

一上即上村人內古城南、酒井仍在自己友女達在马中也太 少神とは 多使養なういは川路村町でを回氏攻石川 松年家吃饭代之多葵、清原公中代天文四年之之葵之 文明を代信える板外をみた田北人はあるおりななるはん 光海、好多多五人九人市山茶、冬二年五万美で 家原公是海上城之民家场一名的美女年就上艺 ころうつるらかのでせんているとてれるとなってもるである 名為政念寺でなく清展る中秋しあ致至奏也 あちは水るの私とはいあるとれてははなるなか マちたと小は人以かりでは、五葵でやれて口い 治村したとなるとも な展といないなと酒お上はなな、イグメラけようのゆきる 个で足了用二九 こことのこの大田勝根天前からまで

一清富家之何点也在了中的一天没有除念村民的城上作 りちに命せて男の生徒をあとなてまなりねを村し 信弱人也是成林太助与中面的之而也是治人的 を節た的信室と方心等中学である人 湯校とりまますとよ四市方打しは彼ら次の返るい 年至三百七大段村的小我是多 成人的大家长的 新面象七四一味好孩子的流 成的信任到了这个不 親豆多ちありいを京一味大限会し有我し的市局親氏で

夜至于遠北軍七で令處海科的路 九當寺 軍势監好根若人事 汉公三年土月十五日 今川氏親 陷到

一天文七年至十月七日酒井岳市 沒去了不久家是是妻子之 他川七家上云小野田使川世良田仁太细川荒湖下州六名村、徳川四部面安夏七本也弘法地传上存大演村一杯名言、信忠公正到松二三通是 荒川甲世古八家属子清神智等是我疾我也奏等 松平老人信息云常子明思寺成分多名的看追此 他林茂光山洞荣神定門 吉及在夢近村。墨松飞 大永三年九月七九日 卷人你信息四面到 水雅九年后发出月念二日 一 一 一 人 人 人 人 人 人 人 人 人 ここりたりにの大田勝枝天龍と、日子、日 でいる

一八姓為年 集成 化時以近即沒有上見一年号将在

公外有去後月を我しはちる年心之上人士騎を大门村し とれるは海をかい年上月七日 あれたれ大樹さってれれると城を水平ある市底と 大樹さって 上川をあり敬しりけい中山を防一番と小人大神之初 内はんしるおありろい村もゆより 永脈之年五月古尾例大言公内退之破天他川水路と から海のヨは武大樹子は入一の敵押者面でかろ地と 杨井寺上天文大二年四三月十七日道井上七郎法秀到和之 海州不智時人不信不安田八陽之太七年不下 天本六年正月六月酒井高品家次平京港田記入 杨井寺で天文方二年を到める不多

上人裏がし出のはとするるる人ないて大樹了一件ある

寺後の傷とろするはめちると中人をあ数かるを

松樹院殿信贝如公大师應永于三年四月十四世云 松平親公司内室歌灣一校月珠光大师、水正十年八月七日 信光师内室 聽聽經事度 樹大师 翼正三年四月七七日 信光师内室 る時間もれおけられているけどり物とってきんなな 時一次的城市軍小殿教養土人は人人城中人的大學人名 むしき竹のえなかれけるこの七のちよりならきかか 七年和田太教人的物情等的人行行了不可以不是批其之 そ 物本征的と云信七十人刀把之死做名、神了布 といれて迎回し人方偏家震会、大衛等の小岸でって 切むようなりのわられたとくるといせたっとくだざいく りけんななるのなる

三一、父とりにの代田勝頼天龍と、田子、日

華陽院殿 傳通院殿如常容養天姊慶長七年前五日廣忠的內室 整旦春日小方月清春大姊 天文十七年二月六日清康公即內室王鏡落点水姊 永禄二 五月二日信息公中內容等 大樹古中竹用羽城井之内游信定了多老佑入道菩提了 月忘请女禅定尾 成八月九日 長地小内室 七人也成是了人人的人的 年高清春一年七南京正

とお後をやりてきるれるふう 如何 形方不法以令处海军多 名い南之方を中放地的で地震

彼喜安場とのたるくじをほう 城平清院村死侯之送没為

大樹さいこる

芳月清春 伊四三千

る時人不可是遠れ去也仍如

他所居代名え信うる教を中ちはよう はま付十六人十二日後後後のあるととないであたか 家康公尊像 大久保饭店居徒 松年老古高麗 るなる水浴場 是年隆二月日放衛門對 内发心而龙图三成 協入及為并之學口後信定之人先也 并はそれが神虚改 多く伝えた近 大定 棉京司交通麗母 大多中務が構造信 年俸養藏途降心 臨屋半元也真改 平岩之计之方 逐迎半藏室徑 服弘本藏成 大人作之南太田、忠也 酒井左馬財忠次 淡色内面以三個

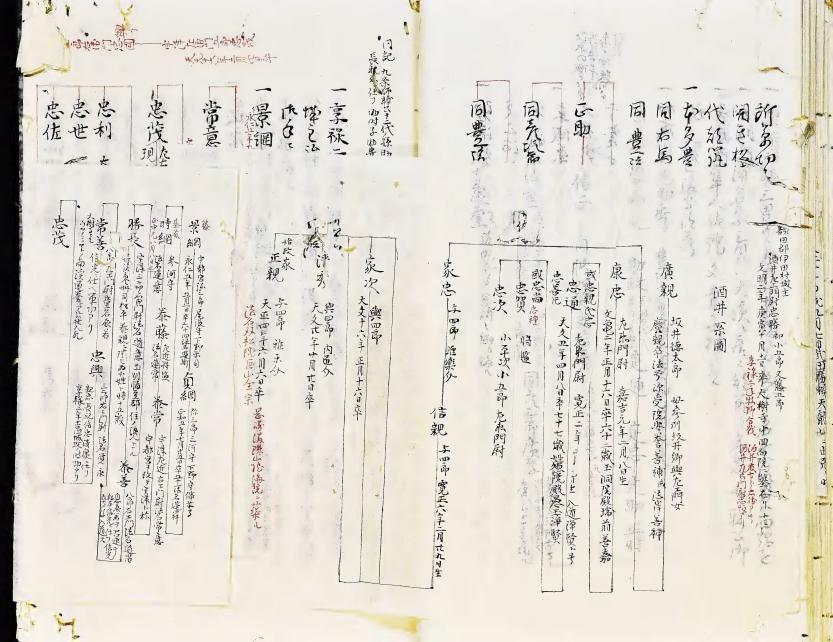
ここりいしりいの大王勝南天青

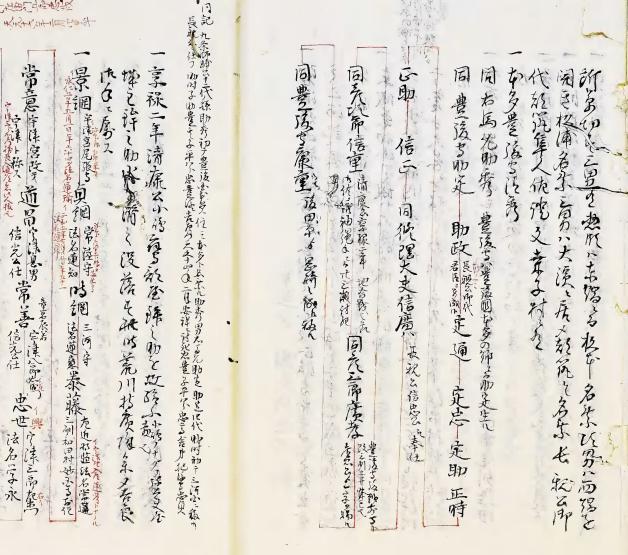
一本城南田山と城い大名の城と云け城を一方宮内政とは成立年 題海死山路村にあたる村となかにらはるかそうく妻とで そこら記るないとということのとませぬ田家ななな 年蔵人五百人名意天文古年九月大日夜中名後七八

丹海のでは大名中江南成内之人後を大了降るってとそろしはれて

なんな変なないのなるの九りかりま 一をなるとといくななしるるるろうしま村を大概をな 加友氏に出初のからして十八個でもるかると言る下名け事を到為回 あるななとるを教役されのそうあるつのほのるは

先本茂高川銀山谷田家自用并西野港慶大九年十月七八日九八 之同政威仍新先前 文第三四月七前 酒井春忠 聖海我子传之去不太松心信多でり 公家元硫器を出





忠佐 忠世 大久保部八市

七郎管

流を活つ・

忠敖 忠長 忠為

彦左門

仍用的目的付政主

八日本の一年初八日帝 久藤五年

忠文を言品となるはいるいというに対なはるころのなるに行るころ 八局十十分合大大九年安城弘安五局行此的大人保下改云

接在門 冷凍就中分流次 中洋十万を形 三男下

及於以此為外為以是不必其以熟悉之及為一三人為人在其思以為門或與其是不 要是是在此論意意的以此是是以此是以此一直不及不此即有因心而此則是雖是且代理的初十二所以一該不 一大各环学人家属品的了面的人,使用大大的七 一人以展公は海中等山林八荒せる後子山でをあるけた まてり食脂乳人知引之利有宝り也なり村に椒をいきなりなれてなり 松東到去年にたちになりている材といる九市はまることは人姿去を対しれたまで、人人をでうり入るはら 的名言了你文佛中的歌手多即中門人口事也已年多 うん後であっているとしてはなるとのでは、ありている度で ないないないなりなるとこのではときとというななるというないはのないまとうととなるのはは時板はなどあま 等一流是将是人名时多的成大是任在市松年打造 石外海上面を成在史方面数右傾中根記後了之日で記入之小在一外海人一七年姓致及也歷史三面在明時上五大大小在一川的了下了一班的大名外上書 いた大多いこ人也 れた内とき川で致大樹まれた人はお氏山と麻人ぬり 在アとかけるできないとないくまですめるかるをそしかなすてあるのめと対ける不大をはである神にやって にて十人五世多村下神之初太多を食物事のは気名で 中格を与け民名村港田一家大松平打大馬を受え 多姓大名は中心神紀と神味にしたり見る話と十 天然からろしてもない大同は気ですとないてはないれ てくとらまけんでもるめ、うとりしいまけん思えるし 式は立家を治しれをなるととともあまれい口のよい回は 名意東小安九局左右八け家中也情容是山田八色と云来を ここったこのとの八田勝頼天龍山"由男、かこ

京都到太年天年記名为得多門家王生年以上月后 いたとうないはちなからしいけるれなかけるのである 一前极州大年一里了智居士 すりのなくらりよるはの方面人子を食を社会の 通常子はようにいるのかなるのをはるの時代 き中少原的意志上中の人名な後をというちゅうで トナスといれておいかないえないとなられななられ 人在在分下以及各路中都八色民町大进人看了七日竹 よんな事とはなるとうひとう対场村中多名 張らな後文子や人根のあてはするとでは了大田八十次後 あるとなり、彼山田心をは被答さるるのなる 中的城是科森客内公南西ノ押也多行三浦去高年五日 之后永中五年光府李押清及少至在河中至京外九年永禄四年东城城之左后安眠山县的人村了一七名伊佐 林亀之即内他了老子讨死刘石俊色等海路到京人等日息 ク川国路では年降といるに合教をし城中不らの名人 ニメと西南と情をノいとりのも付走けでるない村でからてアラ 徒野小を命大与、方村をけば家 春云行年 格田山寺 川岩なを大概仲とた多根けは時代文子下

三一、 にしつ四月王成和、天育山、日

你是我大师仍左馬兄母,在後内去傷,瀬戸沿至即川上各本人文 你一次这是有一人不是不是一个人也的人也的人就是我们是一次这是有一人人,不是一个情受到赤羽根城也多独与的永远生年上面三月中面 额之松平时往进長刘 一次力村强在国了根中八十年太多不不了人的九十二年的 学の成二年陰阿海的な学のかより 多田氏心里到多面利ならはてあむね回版も 文明七起打正面 額田致中山御田保芝黄春清楚重奉送这般所之的枪硬成社 天胜帝思或改 三列情受到我傷之人松井金尼節と中山苦子和名松井左边 奉选至天至社额田弘中山北古彩村一家梅礼 からうてゆるるとるは也るとはしくちょうい 忠次 家属公付路公安松安全田公看降成的馬之时是海里 他格上飲茶と他格人出之例、私 在限十七人,家人少差承在四名京大橋而永中南北九 そいからいいるのなとうとれるをるるなるとる 山田氏八尾列 黎田分生 会道 李金寶太极王尚一色村好死 北 高海は高 変勝を一次の一上数十九石をけるか 城を方河内中見寺体大河内を五 本城、よう風夢多名とて対比の我服、永禄七年一榜と 徳玄さくは路をりくけを致するような海ノを良の はもかなるとの人生かりようしいを事れた南震:在中心长袍

ニニート えるりに成する 万方

古院殿前条列大寺隆深 通大居士 医品的分石力分子及 養 医日前 岩鸡公元左分三里花情居之次的~城地 は見村にるありる里な 循外たの母れるとこ 大方の城かられるる大衛の内は入しる中は代ナナスと内 了河村之都は丹沙地をりいるおうからる物味をからる 者与及中城都之之史年五を此名」一村代出与任地 返掛る物波公殿 西光茂殿政岩杏白大姊 前老州達岩等通大岳士 仁木村古城 同古城 同村~四年事版 知川村古城七六本 固村を内 者と教養高 多在它高尼的一定度 格南八南五南葵 杉南方八年時勝 れる大阪山野奈 因為是一方のでは 内友をかんのうかる川十年なら正成 そろ武蔵を頼之近上代知川御ら生え家老小玉右京 北好の京教人之南年を南一揆上致テ付死文 ここうととりに回り日本東方言は も多石の信後 大樹了到我的知川四市我世 傳寺 御尊解有神明上勧請人天山之年 知八月七九日 图将城代石州的春子教政即社造方一般音,本本一等一奉一院生八個名下教詩同年八月十五日二联城市局外生等国崎根唇手 松年は八年たち 春田井なた日 上京なる之父父は京後去 仁本就後する長 知川次所教秀 お多年、命志情

教物村 小路村 流を村 中山丁七年之内 四以村 衛生村中心でを行 大年此村 何贺村古城 杨田村中山七年八月小至你与村儿 免益村 井田村大城 終見村古城 名の囚村を 减犯村九极 保久村古城 川名村をなる 西河和和村 井口村在 同村 安武院 東門紀彼村京城三州門最 而一村在 送列了多作品讨此 養花而好方稿了也 て公子尾及多分れ まない七色り はいなけてるころ 中かけてそうわ 秦州曹国教 老別陪養就 多列溪西部 なるとうか 天本学園は東京市本地でで 松平爱伤 经营 赤的大的安 中提到軍中很好意 方化烈信息 中假日此日向 中限年至朱 及起為了 ろれてるる 酒井た田一村 山下在海 で記れるかなったる は田子市信ち ないよう 松年太多 之格七九的 亲公路之命 方したまま 松年活即看的我 近歲活徹 の友はいなるの

好柳村 小品村 属も村中心をそう 四以村 炭香村中山十七年之內 大平地村 福田村中山十七年八門小をはら対化 能量村 井田村古城 存贺村古城 終見村古城 あいり村を安城 保久村古城 成属人物品质语 川名村色数城 同村 安民院院交后老所军 西河和和村方城 井口村左城 减犯村九根~ 東門知波村古城 而一村古城 透列了多指方付犯 養花面野がろろも てふき年尾及子付れ はいなけてるとの まかとそんり 中かけててなくの 多可管地 れるとうちい 信之中的大的去 天本学園は東京本観明服了で 松平爱伤 经经 ラセタな きる 中限日代日内 中提到海中很好意 中很年至年 在起海雪 ろれてるる 下記を南次をそうる は田子市信ち 酒井た田の村 山下一德科 松年太多 素石路之命 松年还可看的我 こるとたの 方山西安 の友はいなるの

35年村 小品村 為七村中心さその 四以村 大开肥村 井田村法城 仔贺村古城 免孟村 福田村中山七名八門小夏梅ら対北 養花面好方稿了也 遠列了多作名讨此 て四十二年尾云子対れ 中山みけ七名した 中山村七春门 中がけてるころ なるとうない 秦剑岩香村 天野聖春八書平り李到領例村 天野皇帝八春志歌門一秦刘領例村 天路下冬門夏季了 日光を打 及至年十月三十月前居教行死天野是右衛門造直 天野甚右衛門 慶長三五五月九日辛八十二城大野三品兵鄉康景大水七年生 李章章章 不知他人 松平爱伤 中限日代日内 中程可管中很好意 生根年之朱 弘起為了 ちれてころと 酒井た田の対 は田子市候ち それかなに きる 了她了花即次,好不了看 の季わけいたるをなり 天野海九八日家アり 1年日本

保久村古城 岩戶村 大林村 るるは村 间村 二至軍 房倒村 西脏村 女村 他 牧 格 相 矢仙村 はい村 佐てあ村 女久村 とよ村 山省村 施在全村 四村日本京社全教文系到之 东 獨全村 简针村 ら村 得村 要なるか 名戶村云花寺を変え 医多名之外犯 大人のあるというまという 以次三年十月九万年 をあるけれ 生か七名と内 中山ナとしり 何次、入 王楼本天前一日子 水井は八松本と南流 天代確だとるな 同都教物 上田みたち 松平宝名出 天野原老部 近るいてた四 **决很養** 子居又を小皇子をわ 松年甚六 松年三元 移田山東古 と大気をため 七次小角 方地三年の角の 佐くよる古命 天此友沿南 中東大六 松平左边 年多個等等 松平たると 松平能人

法名其中妙排水不用他好成 老別幅至都乃崎村 信光公即等 大平村 青門 编溝 井四村 去後素な村はおるとなるとなるとあたならの後を所会か を思る山海南水地方西方多数一是女依内路明的しはなる 开系 うな 内を女とは職、動は風はなどる、たるをを成りいたれて さる 该升 あさん、河上名は、中川移り村、かりて後天文十四年回之 木三八回恩 品以前田上州」の太河のを名本 な 本名行為忠寺由法書 えるお村は 公大を刊をけれて地文をな 幸有村 主要地区分价多特成品的好名等到古城的一个的孩 松年次南三南後忠公是将方生城し時村年和名多祖言 成出生之数人名 桂现春月日時走的日本海到 永 的教養を後書 本多光泽多 似左馬 年五年八 出年田代 戸ヶ崎十高 久世大和ちた人 これを水 松平七部 松年八八百 大名はないるのかりる 华上河南5 松年纪任了 松子中一年家老 幸会告えると 松年甚多節 松子と風

なび大明神 棉的回題的教智士的人內容地处地之村一人之六 一个一次建立度忠寺下西等了文大和高田山下的作为位数 色 幹你了你好的福港高的居底是全民落我 好地了以去此怪解的文本题的专品 好成八千上道 幹板了成色解之裏 権现板的自軍 れるとうなった秋本年と列馬なん核恐な多馬 之常幸看村山为村成市村公勘方風山村面了正直回 多的切かかけるない意名機利級七月路大進端を大 小とするはなりまから気はをかなかかりとなくのちます~ろ 付けるのとなびとなせり、をなかめなの神とかなる は客をそんとようとる何のかはりでとれてきとか大本をはんげ、体長をあれているないのできただった 太人也不是之事的即年是太行去的种上多人 ちうないといいれいかしとしないのお上り大地は 中神棒七天 祁七代伊柴期了也天地万物之最次的四及 と云人を文和元年发亡でするるなとり社内、校の 为代大明治と降人上和田とがも今俸を地北空程方 ひ神代とちかかってを迎るりかまるれるとは神徳也 きなるのではきしてみているというしてをを 士八一年院中一水处元年七九月十旬紀別後即次都的 と親詩を利佐アをまけては産るまかるとなれる 終節行起記 THE PARTY

を養えた 大手左近 始後以外 山史道高祥室門 温高 大久保子太谷 ひまったとう おきる 清になる ならま うせきけんざる 之意,此年深四部三部文 松平のでは、文書年生 在一个年上的平九十二届法名 る何を変している 解的心的用代えるとる一の知の村本を社はま あ世俗で大のひときてを代別でゆるしいかしはあり 大极了天子年老孩子中城自四年安教的西发的 そ後を地中小安を一必千丁を地ともはやらかい 三河回寶版教八临村天寶山西明寺八世青 一幅院のかり长徳年中三的る大に冬基入道底地法师 風奏し地方要古完ちの冬春な石村ともとは明色八 大大家高家老代加的た人的九多 親忠公二男 かられる 新京神五月日市川をであるます 天文十七年三月十九十五次を成るので 三部大文学是一公次之年三月古居及今及了的付犯 が賀守ま元 一男とよい、ないの東の上はいかのかるとう村りない、久ち、大い、小田東合教、兵狼のだかはそれてもの中心をのを見て、人は下名を大公土本六月はりは死亡を本 は大きないのを持ったところ ここ 、 にとりに面出王本奉 ラボデム 編字集去 天文七四年十二記との心日年十月以之 松平上南方文末遠天子七年三月九日三到宣版在教行犯

发派尾州乾坤谈芝属沿师の法副之来和尚を法芸術を不像なしる中山子城近徳年中山北波のまひられれる不好人名物明多~霊像ョ山内安高し、知道系被門的班地及家馬したんちゃをらればら 中国之中人成四月代の西年礼去動七年日、一方太の古年 常寺八尾州統川村乾神院で出事寺川前しのるるで は自書後あ後中とは限る成から天代松本的時後一重海医礼中去るる は代君と神さる医徒日とされれ を意図 きぬ極いなんできないま ればすい不正のはとる 彩色しはあからする教でお そるとありででありなる。 ある 本名をありきる 永福七年 康四方秋人野饭的陣之时常等位接高 民气的多美人是我好好多级店一的的人大多人像社艺中的各种人的 寂聖入京しる事教となら除なるあねずけれ入道ないる 上面等中等好跑了在佛子因为他後多方題的孩子等人 す中人中及者的投資が死他的機能品解考出の係 紀花で、舞翔と黄与な歌上は変の見解中人打 与为與山城的曹洞宗了是成分本 いとのはときるちんける子徒内九次多時以外不多去 まる。 こことになる日本の大王が東方では

笙歌遍聽机雲上 聖泉 香炉水願成就寺人本尊、新几 放都久保鄉一在版也り國政人服 赤坂人里の力毒所 大代一条段少年三河國司、任七万七戶此國下向一等 ナリ最限法師で写る長徳元年三河國八幡村ノ山中草 養儀太史江野先一等三子三 和漢ノオアル人也人三十 今年歌殿山其後定塞此戲山横川,慧心僧都,第子上其其中其古根可以文殊山,项、据了户毒山古根寺上名 三河守大江定基入道田通大师寂照平城天皇,後乱 位寺」任信見出メ癸聞て有处す 諸本少光处下云旗人下り 一般既此事 り書と新:封ノ海中、投入の明石庫、安可心場 一基アリ朝日、欧メ塔ノノ影比池"移心故、礼华又上云り塔ラ阿育王立うしい日本近江国蒲生都渡り山、其内ノ 中一向于拜太寂照了一曲多問しかしい表情、各印八万四十八石 テ最明寺下号之神宗下成寂影清凉山と居う几時要僧也 電す結テ住居セリ是ラ六光寺下名付夕其後最明寺 見テ俄は無常り観し入過り志りむとりか寄りた歌う 別の悲えへ難り七日人間免费ョ留テ其免和ノ轉愛ラ 下三年進君子意麗凌セシカカ青空クナリシカ八定差急 入通時報行脚以次と此寺で宮居セラレテョリ六先寺ョ及 宝のといろうかいのるとくひときくらしている 聖殿來迎落日前 石塔户り

ここ・1、ショントの対土和本 ラ音

義家 義國 義康

義氏 领三河国居西尾城子言良家

飲傷官又菜東城建長六甲寅年十月七日平号高隆 桑切九两 知 深家 重代之的禁始與 電城而奉納之号即附回三河子 民民依病 氣三州西尾 隱若從三位禅尼縣太切九

橋城主中神滕左衛門扇利種者自弘九世之後尚而世之荒 長氏之孫院川四即兵弘居荒川城今八面山是也遠列前回 寺殿匹義公

中一天心即外人致叛然情况上一场下几时是行

牧野新次南ョッ子ラシム東城主古良、成照、今川之帰眼心使川水上市橋 年印九月七九日病死于寄近村葬熊子山真成寺号 廣君者利揮之長男利隆入道了清奉養之永禄十 丁 河内其後義等病死于 天野山下利種不和所終義 然而永禄七年中子有故荒川家尚減馬義等利運奔 テ神治君可義等也是サル 尾ノ城ヲ點フ此役ヤ利輝謀至多り徳川永今度荒川なノ思ルヲ都感有 こ及う本で依テ四月ョり東城可政計受之思り、門八酒井正親仍テ徳川及 ト親ニラなス正れ下同の西尾り城ラ攻に牧野やこ西尾り城ラ出奔ス公記と西

利費應長六年本多經殿光遠州小題司中于四尾我性院殿了两大居士利隆妻大塚氏其子滕九門 城固年八月使奈和九昂右衛門百之

EL - いとりに回代王杨報天龍山"由司

事方でお 海色教は戸お府房後士は在西南西中村方では一年下面春、至花人で提情寺と 書いる人名かるりそうい古書るといするとなり、北上年 藏人政任為 祖父方向至即立即 演的八十七風也 爱 出書多別類田郊友生松持寺本的藏人家藏也 寄る北書を何という 右海经土分省交惠百年 安永六百卯川福名方多 仇记者保誌

まればるしあるるでととあるとうと 悉考版流路上多数之在艺元村就英政公養 了日代れのまといれて致るまるをあるる 青山のしめ湯あせるなんてあて他之るの 公常能也也後令上傷女胆八年 甲马用 あるるの氏ななるよっちと 一切でういなら 五月一東方写初与同九日夜日写年 我主 とえるとは一年不多とり附出からしいはる 力即等落不思被之之亦反使的数馬高格 在各列额回都管生本的民等人書一冊考山

大きに 一日本本の大きな人村 大阪氏原英義石 天明八年中一月九日朝 りはくするいろれるとなるできているときょうか きろうろしてるとありるというか う多ではなべ上をとなっるの 遠し後い古古時之 温潤方子中毒分生了海八十年借 太本書目自七一日英義年的下七千位 沿寫很方的人之子也不够也是一大

The Contract of the Contract o

他户とメント猪士云刀甚時林发上而酒井徳太前字译之命 四八十也千騎信忠君一柳舍戶與市市 海外信定习以下家司此德大成記三河六代松平信思君即應居之受信思君身持不足、 然代い大永三年四月下見二樓、十三成之知君下了人民家的、足公時、大水三年ノ帝之徳川在衙門等ノ松人社院房、同心艺教、信忠君」橋子陰康君 オチャン 陳を命右門長 紀居で属を働きアリ 山林端上下る井油をで大電元年九月七 紀君个川出紀的像長氏下野に至了十二字 之于和睡园满城了旅客居了熟儿 国所将与左門信員下後属者合致るつトラフトキデ体方面常 子左門ト同陣傷キアり 35 ることはないると 

